

ネットワーク / ネットワーキング

教育部「情報産業論」11月27日 / 12月4日

社会情報研究所 助教授

田中 秀幸

ネットワークとネットワーキング (リップナック / スタンプス)

- ◆ ネットワーク: 「われわれを結びつけ、活動・希望・理想の分かち合いを可能にするリンク」(価値や関心の通有を通じて結びついている自由な立場からの参加者の網)
 - ◆ ネットワーキング: 「他人とのつながりを形成するプロセス」(アイデアと資源とをリンクさせることで、人と人を結びつけること) < 動的なもの >
- (注: リップナック / スタンプスは、社会的ネットワーク分析に基づく)

ネットワークの構造 (リップナック / スタンプス)

- ◆ 全体と部分の統合 (それ自身が一つの全体であると同時により大きなものの一部)
- ◆ あらゆるレベルの重要性 (ローカルとグローバル、ネットワークのネットワーク (メタ・ネットワーク))
- ◆ 分権化 (分権化された部分の協力の下に部分をまとめ、全体への従属を最小にする。c.f. 官僚組織 (上の二項目は共通するが、この点是对照的))
- ◆ 複眼的 (多くの視点。意見の不一致を許容するのみならず、多くの場合それに依存)
- ◆ 多頭的 (複数の人にリーダー・シップが担われ、かつ、風通しがいい)

ネットワークの過程 (リップナック / スタンプス)

- ◆ 種々の関係 (構成員によるダイナミックな諸関係によって形成)
- ◆ 境界の不明瞭生 (開放的であり、参加の条件も非常に緩やか)
- ◆ 結節点とリンク (構成員は結節点 (ノード) でもあり、関係を構築するリンクでもある)
- ◆ 個人と全体 (全体と個人の両方の意義。個人と集団の価値観の同等性)
- ◆ 価値観 (ネットワークの紐帯は、客観的というより主観的、物理的というより精神的)

社会システムとしてのネットワーク (公文俊平)

◆ 二つの社会システム

組織 = 複合主体そのもの

社会型システム = 非主体型のシステム

◆ 三つの相互制御行為

脅迫・強制特化型

取引・搾取特化型

説得・誘導特化型

社会システムの分類とネットワーク (公文俊平)

	複合主体 (= 組織)	社会型 (= 非主体型) システム
脅迫・強制型	国家	国際社会
取引・搾取型	企業	市場
説得・誘導型	ネットワーク組織	社会型ネットワーク

出典: 公文(1994)

社会システムとしてのネットワークの定義(公文俊平)

- ◆ 広義：説得・誘導型の行為がその中で支配的な相互制御行為となっている社会システムの総称
- ◆ 狭義：通有 (share)・互酬型の行為
- ◆ 互酬(財・サービスのある時点での一方的な関係。それが後の時点でのお返しを期待して行われる。過去の時点で受けた恩や貸しへのお返しとしてもなされる。いつの時点で、何を、誰にお返しとして提供するといった条件は、関係者間で明示的に指定され相互了解されているわけではない。)

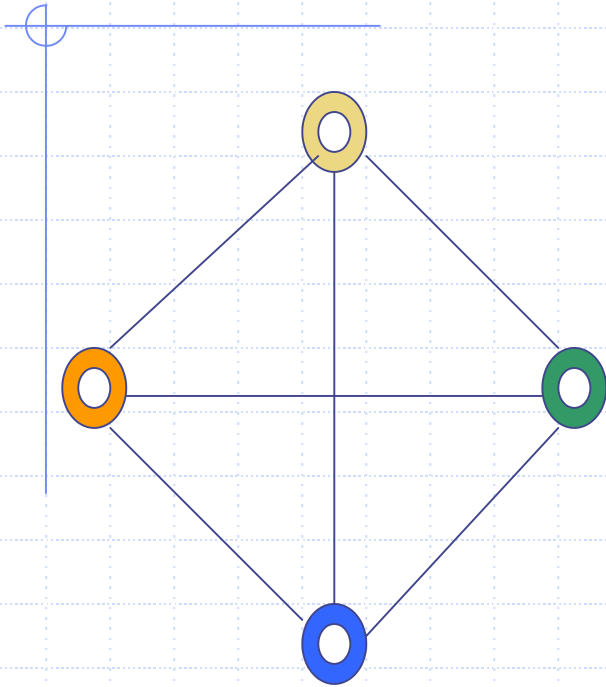
ネットワーク / ネットワーキング に関連するいくつかの概念

- ◆ 今井 / 金子モデル
- ◆ 須藤「複合的ネットワーク」
- ◆ グラノベター「弱い紐帯の仮説」
- ◆ 中根「タテ集団とヨコ集団」
- ◆ ロンフェルト「社会進化論：4形態の結合」
- ◆ シリコンバレー・モデル
- ◆ 宮澤「連結の経済性」

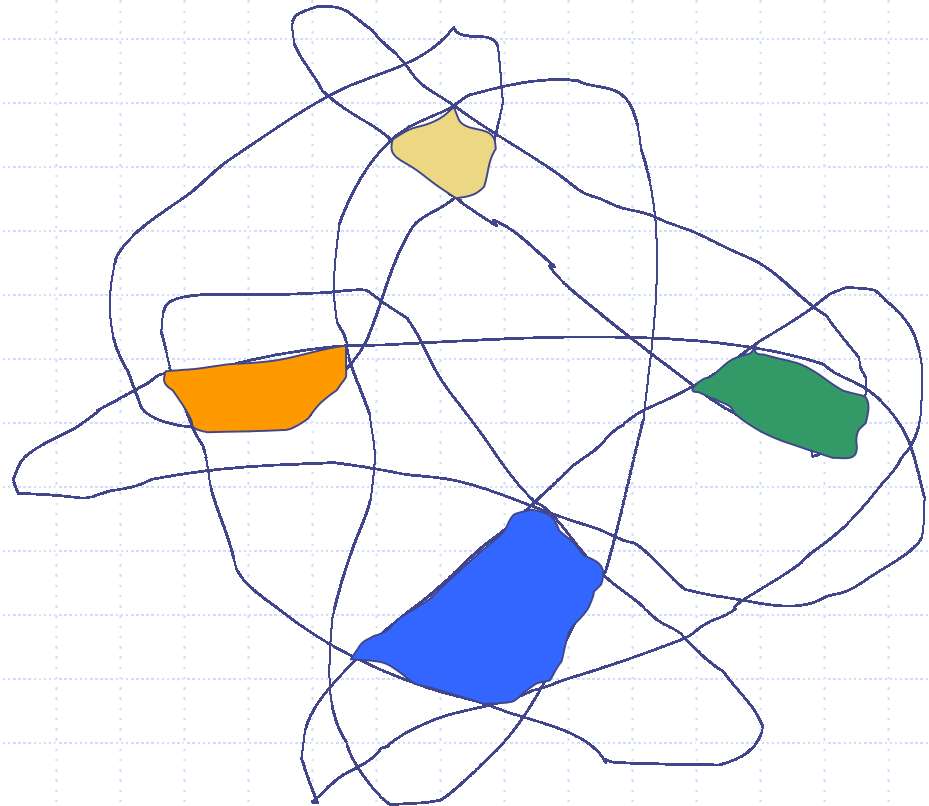
今井 / 金子モデル

- ◆ 従来ネットワーク: 自己と他者を固定的に分離 (スタティック)
- ◆ 今井 / 金子モデル: 自己はそれが持つすべての関係の重なりとして定義。自分の持つ関係のうち一つでも変われば自分の形も変化する (オープン・エンディッド、流動的、基本的不安定性)。自己は関係の中でしか認識されない。

今井 / 金子モデル



従来型ネットワーク



今井 / 金子モデル

出典: 今井・金子(1988)

グラノヴェター「弱い紐帯の仮説」

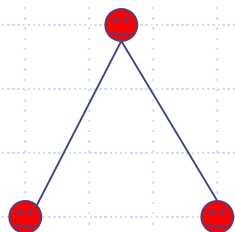
- ◆ 米国ホワイトカラー労働者調査に基づき、職業を見つける際にはネットワーク(人的つながり)が重要な役割を果たし、特に、情報伝搬において弱い紐帯が利点を持つ。
- ◆ 弱い紐帯: 強い紐帯を通じて接近できる範囲を超えて人々と情報を結びつける強い効果がある。
- ◆ 転職する人: 紐帯において、ただ一つのネットワークから他のネットワークへ移動するだけでなく、移動する際に、これら二つのネットワークを連結する。

中根「タテ集団とヨコ集団」

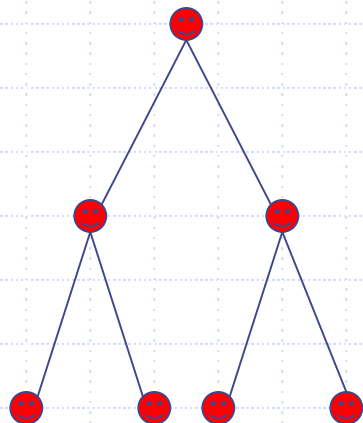
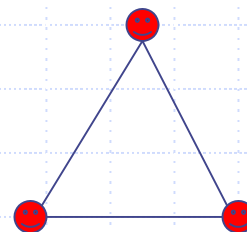
タテとヨコ

タテ	ヨコ
「場」の共有	「資格」の共通性
エモーショナルなアプローチ	理性的
枠	ネットワーク(枠を超えた)
個人は一つの集団に所属	いくつかの資格を有している ので、複数の集団に交錯して所属。
会社、官庁、学校	カースト

中根「タテ集団とヨコ集団」

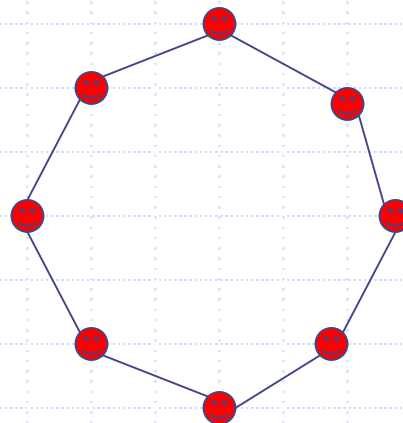


基本型



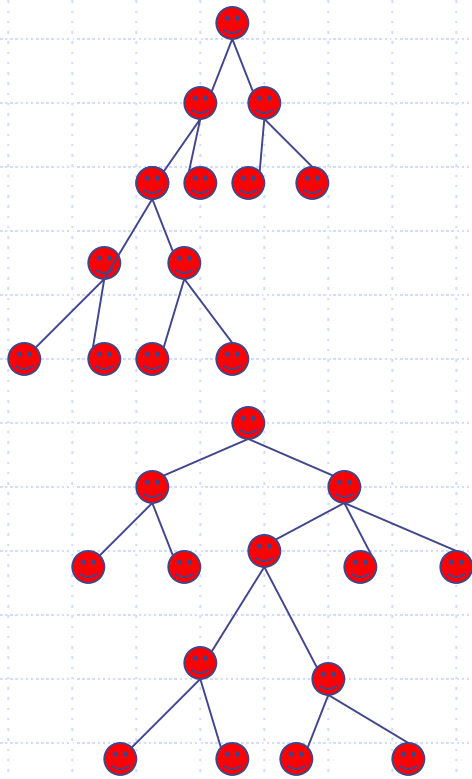
タテ集団

発展型



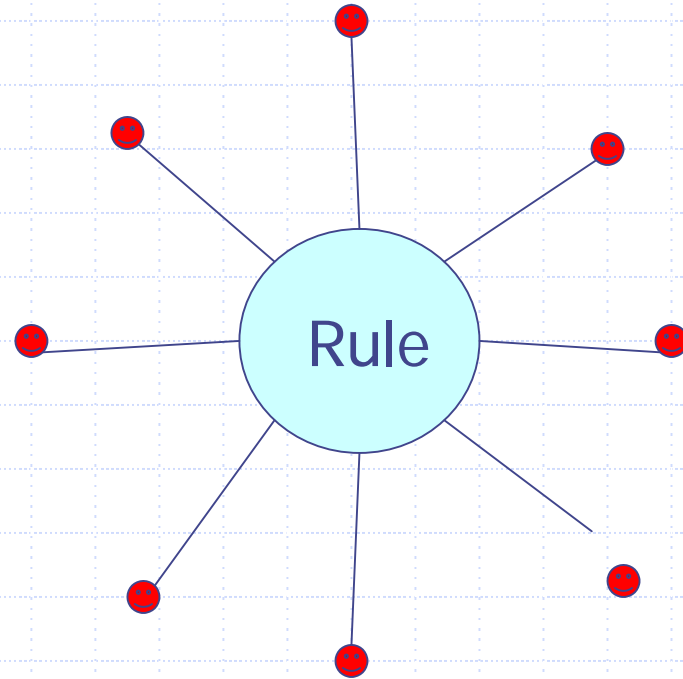
ヨコ集団

中根「タテ集団とヨコ集団」 入団の条件



タテ集団

= 人間関係に忠実



ヨコ集団

= ルール自体に忠実

出典: 中根(1967)

中根「タテ集団とヨコ集団」 特徴

- ◆ タテ集団: リーダーは一人、交替困難
- ◆ タテ集団: 分裂の危機をはらんだ構造 (ヨコ集団: 成員の直接的人間関係・力関係に集団の生命が影響されることはない)。
- ◆ タテ集団: リーダーの資質にかかわらず敏捷にことが運ばれる (ヨコ集団: 意見の不一致がある場合、迅速な行動が困難。対外的集団行動力が弱い)。
- ◆ タテ集団: 二つ以上の集団の合流は、合併よりは系列化。ヨコの連絡調整が難しい。

ロンフェルト「TIMN枠組み」 社会組織の背後にある基礎的諸形態

◆ **T**: 親族基盤の部族 (拡大家族)

社会的アイデンティティと帰属の意識を提供し、それを通じて人々の結束力と生存力を強化

◆ **I**: 階層制度 (軍隊、教会)

権力、権威、管理に関する諸問題を処理し、決定、統制、調整の中心が存在。

◆ **M**: 競争的市場 (商人、貿易会社)

込み入った交換や情報の流れを処理。個人的利害や利潤動機等に基づき行動。

◆ **N**: 協働ネットワーク

多くの組織に分散しているメンバー間の非階層的な協働。

(注) それぞれがとって代わるものではなく、結合するもの。

ロンフェルト「TIMN枠組み」 形態間比較

	部族/氏族	制度	市場	ネットワーク
中心時代	狩猟-採集	農業	工業	工業後
中心領域	家族/文化	国家/政府	経済	市民社会?
中心目的	アイデンティティ	権力/権威	富/資本	知識
中心価値	所属	秩序	自由	正義/公平?
理念	連帯	主権	競争	協力
動機	家族の存続	より高い権威	利己心	集団エンパワメント
構造	無頭的	階層的	原子的	平坦、網状

ロンフェルト「TIMN枠組み」 社会の四形態

◆ $S1 = T$

◆ $S2 = T + I$

◆ $S3 = T + I + M$

◆ $S4 = T + I + M + N$

◆ 国民国家の終焉？ 行き過ぎか間違っている

◆ 次のボックス(平和化)の力の行使

TIMN結合に対応できるように再組織化した国民国家(orその他の存在)。

どの国の政府が、ネットワーク形態の利用をマスターして、ネットワーク化されたNGOと効果的に協働しつつ、外にそのパワーとプレゼンスの発揮を学ぶか。

シリコンバレー・モデル

- ◆ スタンフォード大を中心とした地域産業ネットワーク
- ◆ 立地企業：サン・マイクロシステムズ、ヒューレット・パッカード、シリコングラフィクス、シスコシステムズ、ネットスケープ・コミュニケーションズ、ヤフー、イーベイ、インテル

シリコンバレー・モデル ルート128との比較

◆ ネットワーク v. 独立企業

◆ シリコンバレーの特徴

地域ネットワークをベースにした産業システム。関連技術の専門企業どうしが集団で学習したり調整可能。オープンな労働市場。活発な実験的な試みや起業化活動。横のつながりを重視する緩やかな結びつきの組織(社内、企業間、企業・大学間の垣根低い)。

◆ ルート128 (東海岸・ボストン中心)の特徴

少数の比較的独立性の高い企業が圧倒的力。研究・設計・生産・販売などの機能の垂直統合。生産活動の多くを社内調達する独立企業。機密保持と企業への忠誠。ピラミッド型の企業組織。安定と自立をよしとす地域文化。(範囲の経済、規模の経済)

シリコンバレー・モデル その歴史

- ◆ 1937年：HP社 (William Hewlett & David Packard) by Prof. Frederick Terman, Stanford Univ (「技術と研究者のコミュニティ」を築くことによって、大学が積極的に先端産業を支援する態勢を整える)
- ◆ Shockley Transistor Corporation “traitorous eight” (「八人の裏切り者」) Fairchild Semiconductor Intel Corporation, Venture Capitalist
- ◆ ベンチャー・キャピタルの役割：資金供給のみならず、技術・事業運営・人脈面からのサポート。地域のネットワークの要的存在

宮澤「連結の経済性」

- ◆ 連結の経済性: 複数の主体間のネットワークの結びつきが生む経済性。
- ◆ c.f. 「範囲の経済」(「規模の経済」)
- ◆ 情報・ノウハウが核となったシナジー効果(アウトプット面)。 組織外にある他企業の外部組織と結びつける活動(インプット面)。 「市場」システム、「組織(内部組織)」とともに地位を占める「社会調整システム」=>シリコン・バレー・モデルが一例と言えるのではないか。

ソーシャル・キャピタル

予定を変更。今後、機会があれば触れる。

参考文献

- ◆ 今井賢一・金子郁容(1988),『ネットワーク組織論』岩波書店.
- ◆ 公文俊平(1994),『情報文明論』NTT出版.
- ◆ 公文俊平編(1996),『ネティズンの時代』NTT出版.
- ◆ グラノヴェター(1998),『転職』ミネルヴァ書房.
- ◆ サクセニアン,アナリー(1995),『現代の二都物語』講談社.
- ◆ 須藤修(1995),『複合的ネットワーク社会』有斐閣.
- ◆ 中根千枝(1967),『タテ社会の人間関係』講談社.
- ◆ 林紘一郎(1998),『ネットワークキング - 情報社会の経済学』NTT出版.
- ◆ 宮澤健一(1988),『制度と情報の経済学』有斐閣.
- ◆ リップナック・スタンプス(1984),『ネットワークキング - ヨコ型情報社会への潮流』プレジデント社.
- ◆ Coleman, J.(1999), “Social Capital in the Creation of Human Capital”, American Journal of Sociology, 94, pp.s95-s120.
- ◆ Putnam, R.(1995), “Bowling Alone”, Journal of Democracy, 6(1), pp.65-78.